



©Satoshi Kitamura



Kobe City University of Foreign Studies

神戸市外国語大学

2026

10.15 (木)

16:05~17:35

魅力発信事業 2026

すきまを埋める・すきまを活かす — 翻訳・創作における「すきま」 —

一つの言語と別の言語の間には、また言語と絵画の間には、必ず「すきま」があります。その「すきま」を埋めるのが翻訳家の、また絵本作家に求められる仕事である一方、「すきま」を残すことで生まれる面白さもあります。

翻訳・創作における「すきま」の扱い方について、英日翻訳家の柴田元幸氏、日英両語での絵本作家のきたむらさとし氏、そして今回から加わる日英翻訳家の本学のデビッド・ボイド准教授からお話を聞きます。



© 島袋里美

翻訳家、米文学者、早稲田大学特命教授。ポール・オースターなど現代アメリカ文学を中心に翻訳多数。

1992年『生半可な学者』で講談社エッセイ賞、2005年『アメリカン・ナリクス』でサントリー学芸賞、2010年トマス・ピンチン著『メイソン&ディクソン』（新潮社）で日本翻訳文化賞、2017年早稲田大学

坪内逍遙大賞を受賞。
翻訳に、マータ・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』（研究社）、『トム・ソーヤの冒険』（新潮文庫）、ジョセフ・コンラッド『ロード・ジム』（河出文庫）、エリック・マコーマック『雲』（東京創元社）、ステイヴン・ミルハウザー『ホーム・ラン』（白水社）など。翻訳については、村上春樹との共著『本当の翻訳の話をしよう』（新潮文庫）、『翻訳教室』（朝日文庫）等。近刊に『ウォートン語彙集』（集英社）、トマス・ハーディ『ロングバドル人間模様』（集英社）、ポール・オースター『4321』（新潮社）、編訳『アメリカン・マスターピース戦後篇』（スイッチ・パブリッシング）、バリー・ユアグロー『松明のあかり暗くなっていく時代の寓話』（twilight）など。文芸誌『MONKEY』日本語版・英語版責任編集。



贈られるマザーグース賞受賞。邦題は『ぼくはおこった』（評論社）。
多数の絵本、詩集イラストまたミュージアムデザインにかかわる。また、中南米を中心に様々な国でワークショップを行い、自作の紙芝居を上演。2009年に帰国し2018年より神戸に在住。翻訳家柴田元幸氏のエッセイや翻訳のイラストレーションを数々手がける。
『ミリーのすてきなぼうし』（BL出版）は光村図書小学校2年の教科書に掲載されている。その他の絵本に『ぼくネコになる』（小峰書店）、『ストーンエイジ ボーイ』（BL出版）、『スマイルショップ』（岩波書店）など。また『ことばとふたり』（文：ジョン・エガート）（岩波書店）は、第70回産経児童出版文化賞の翻訳作品賞を受賞した。近刊に『こいねのがっこう』（岩波書店）、『ぼくがここに』（文：まど・みちお、理論社）など。柴田元幸責任編集の英語版文芸誌MONKEYでは毎回自作のGraphic Storyを担当。今年の夏にイギリスでPyramid Boy (Walker Books) を刊行。日本語版『ピラミッド・ボーイ』は11月に徳間書店から出版予定。



2004年にカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校の学士課程（東アジア研究）を卒業。
2012年東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻より修士号、2018年プリンストン大学大学院東アジア研究専攻より博士号（Ph.D.）。

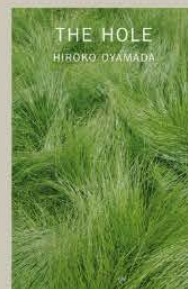
2018年からノースカロライナ大学シャーロット校で教職を執り、2026年4月神戸市外国語大学に准教授として着任。
日本文学の英訳も多数。小山田浩子『穴』の英訳（The Hole by Hiroko Oyama; translated by David Boyd [2020]）は2021年度ドナルド・キーン翻訳賞に、川上未映子『ヘヴン』の英訳（Heaven by Mieko Kawakami; translated by Sam Bett and David Boyd [2021]）はブックアワードの最終候補6作品に選ばれた。



柴田元幸 近訳



柴田 元幸・きたむらさとし 共働



きたむらさとし 近作

デビッド・ボイド 近訳



場 所 神戸市西区学園東町9丁目1 神戸市外国語大学（第2学舎2階503教室）

予 約 右記QRコードより要申込（先着80名）

参加費 無料

企 画 神戸市外国語大学 英米学科

問合先 神戸市外国語大学 総務グループ 広報担当 E-mail:koho-core@office.kobe-cufs.ac.jp

